



うわあ!ゴジラだあ!

市橋 俊太 小2(米子市)

まさに題名通りの作品で、撮影意図がストレートに伝わります。特に少年の表情・手足の動きからは、叫び声やゴジラの咆哮まで聞こえてくるようです。少年とゴジラの距離感がとてもリアルで上手い。こういう遊び心満載の写真は大人には撮れないかもしれませんね。青い空、白い雲、夏の一日、見事な発想と表現力に拍手です。

ひまわり占い

竹本 咲菜 小4(南部町)

ガラス玉などに映り込むものを撮る作品は時折見かけますが、この作品はその映り込んだ被写体が何と美しく印象的なのでしょう。球体の中だけでも十分主張できる風景です。まるで左側のひまわりも興味を持って覗き込んでいるようです。背景に夏の配色を選び、すっきりシンプルに仕上げた所からも、作者のセンスの良さが伝わってきます。

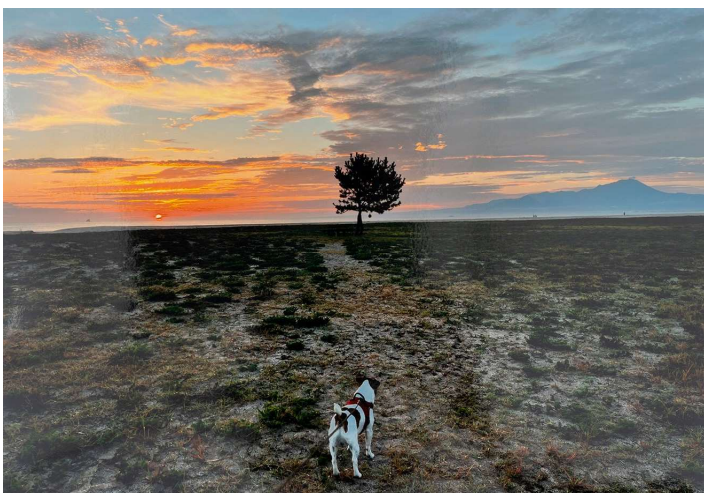


小さな冒険

鐘築 佳大 小5(境港市)

特別賞

大山を望む海岸へ朝の犬の散歩中に撮影された写真でしょうか?四角い画面の中に大山と朝焼けの空が遠景に、近景には海岸と犬がバランスよく配置されています。一本の木もよいアクセントになり、写真をドラマチックにしています。色調から絵画のように見えますし、映画のワンシーンのようにも感じます。





ヘラクレスの友達

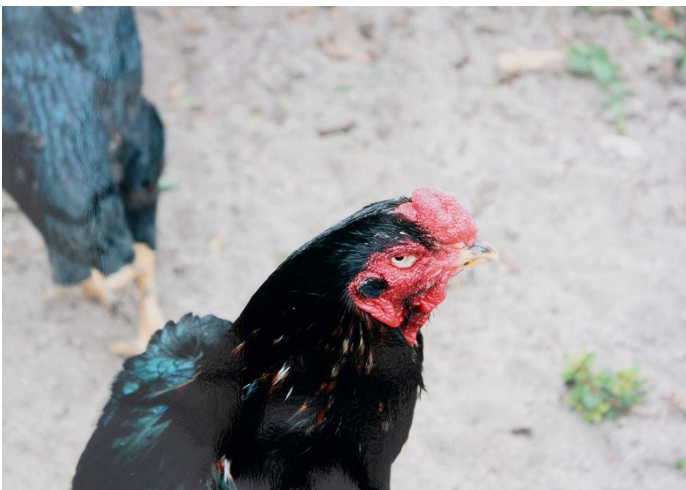
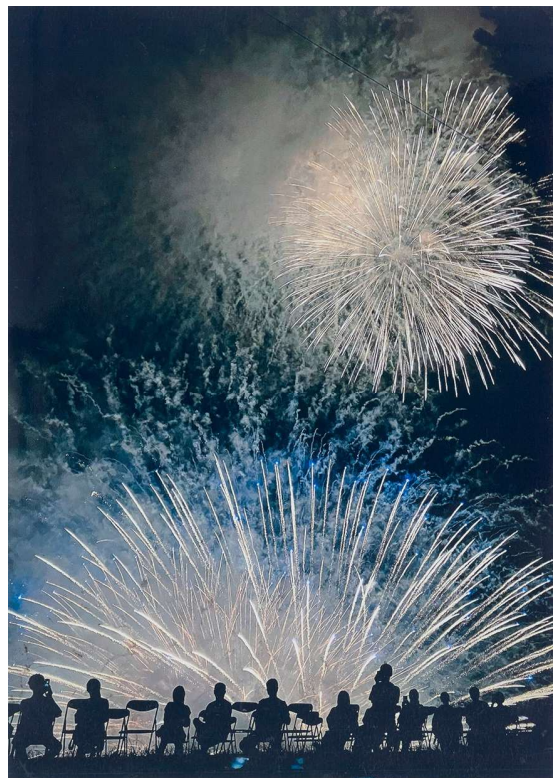
山根 慧馨 中1(米子市)

応募された生き物の写真の中で特徴的な作品です。撮影者のペットでしょうか?撮影したい対象を画面の中央に配置した堂々とした作品です。凛とした表情のカメラ目線で「どや顔」しているようにも感じられます。ピントもよく合いトカゲの鱗の質感が伝わってきます。光の加減もよくプリントも素晴らしい仕上がりにです。

光に包まれて

野浪 涼音 中2(伯耆町)

迫力のある水上花火と打ち上げ花火が画面いっぱいに広がっています。いいタイミングでシャッターが切れました。花火の位置がとてもいい。また、花火と観客のシルエットのコントラストが目を引きます。最初に見たときに、椅子と人物のシルエットが演奏会をしているように動的な印象を受けました。よく見るとじっと眺める人やスマホで撮影する人一人一人の楽しみ方が伝わってくるような作品となりました。



軍鶏

細田 誠 中3(米子市)

何に対する怒り?にらみつけるような目つきに思わず笑ってしまいました。いい瞬間をとらえました。軍鶏が被写体ということで体の黒色と顔の赤色、目の周りとかちばしの黄色の鮮やかさも目を引きました。闘鶏用の鳥でもあるようなのでいつでも臨戦態勢なのでしょうか、ふてぶてしい態度ですね。でもどこかユーモラスな感じがするのが不思議です。



ぼくのなつ休み

稲田 航太郎 小2(伯耆町)

おじいちゃんと少年の空気感がほのぼのとしていて素敵です。低めアングルが効果的です。



一しよに絵本

長谷川 凜茉 小3(大山町)

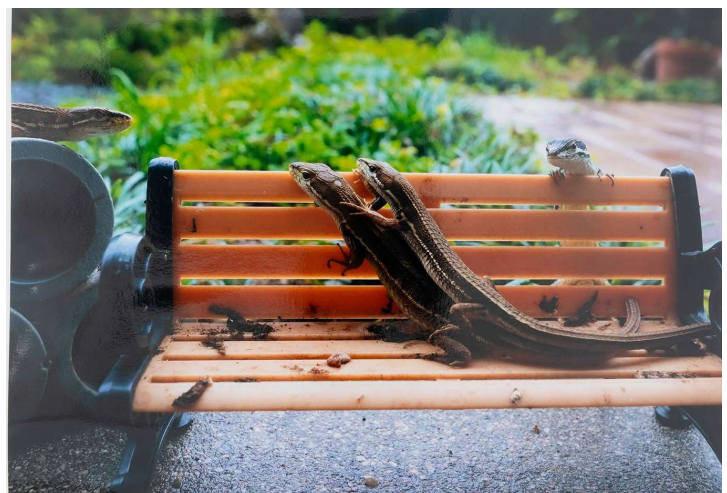
気持ちを和ませてくれる微笑ましい二人。
表情がとても良く誰からも愛される作品です。



まねっこリトルガール

尾川 朔弥 小5(倉吉市)

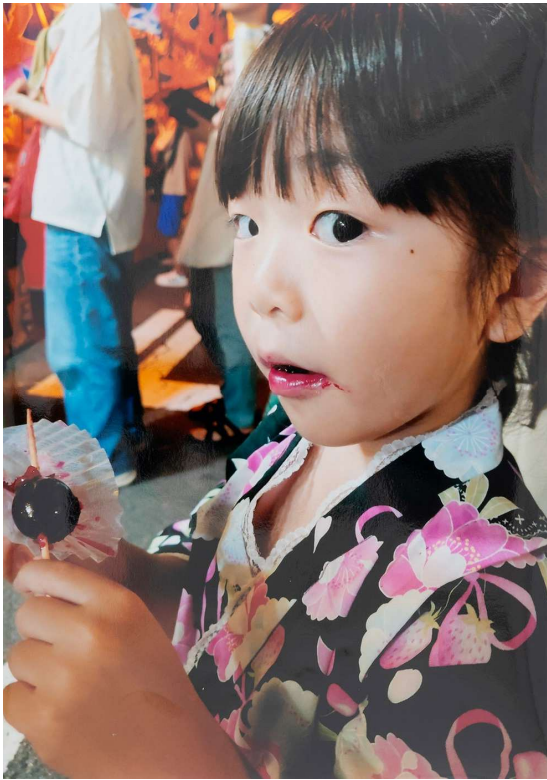
赤い服の少女が背伸びしている仕草と画面右奥の男性の姿がシンクロしている様子にリズムを感じます。



夏の終わりの恋物語

清水 ミチル 小4(境港市)

見事なシャッターチャンス。よく撮りました。カップルを見守る？両側の二匹が面白いです。



久しぶりの十七夜

伊達 結月 小5(江府町)

浴衣を着た少女がりんご飴^{あめ}を食べた瞬間が画面いっぱいに表現されています。ピントとプリントも素晴らしいです。



練習おわり

田中 響子 中1(大山町)

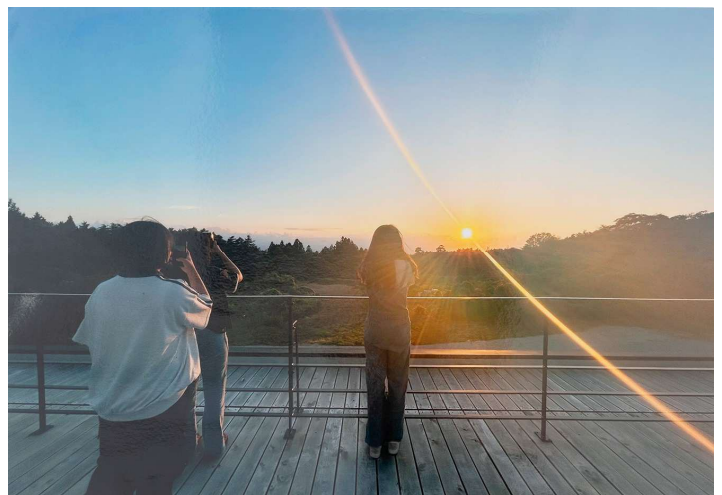
練習後に友達と楽しく撮影している様子が伝わります。画面の多くを占める青と白いラインが奥行きを作り出しています。



ぶどう ウマ

大森 逸平 中1(大山町)

ブドウ狩りの様子を、撮影対象に近づき無駄な物は排除して必要な要素だけをストレートに撮影しています。



楽しかった1日の終わり

井川 葉 中2(米子市)

夕日から届く光の筋が、中央上側から右下へと弓なりの珍しい形となっていて目を引かれました。



祭り前夜

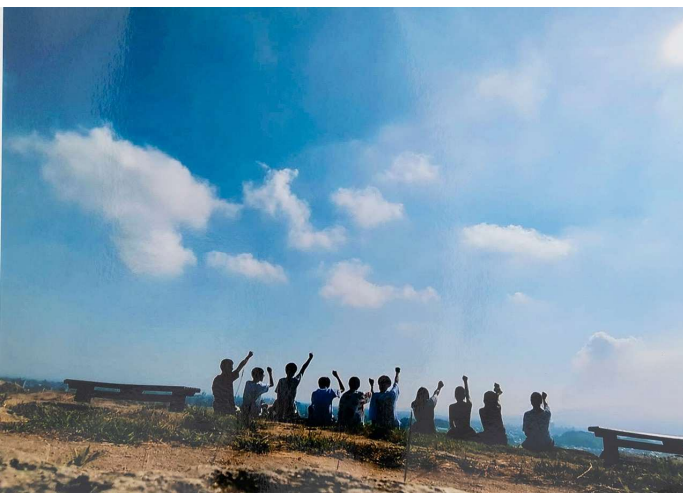
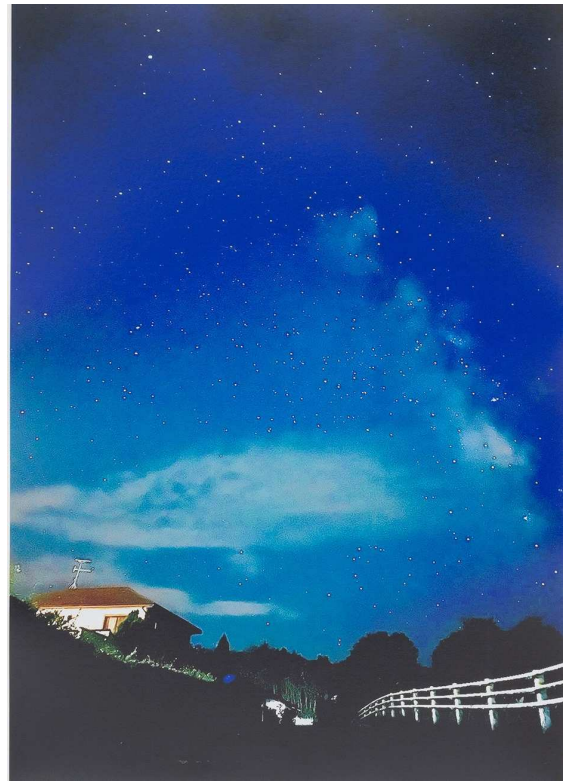
矢野 想介 中2(江府町)

暗い夜空にカラフルな万国旗が映えます。視線を奥に導く構図も効果的です。

夏の星空

二宮 健 中3(大山町)

夜空と星を上手く撮影できました。天体撮影についてよくわかっています。右下の柵もアクセントになっています。



仲間

荒木 颯心中3(米子市)

空に浮かぶ雲と仲間の人物の配置がいい。皆が右手を挙げた瞬間もいいタイミングです。

(講評及び作品評は各部門審査員が執筆)

●小学校

小学生ならではの屈託のない楽しい作品ばかり。既成概念にとらわれず、自由にのびのびジュニアならではの感性にいつもながら感心しています。全体的に明るい季節、夏を題材にした作品が目立ち、列車や鉄道など地域の話題にも敏感に反応した作品からは、視野の広さも感じられました。各学年とも共通して、人物の登場によりグッと写真に力量が増したような作品が多数ありました。やはりわかりやすいメッセージが見る側の心にも響くのでしょう。風景写真なら一番心ひかれる場面を見つけて伝える、を意識してみてくださいか。

そして覚えていただきたいのは、写真は最後の仕上げの良し悪しで「作品」が決まるという事です。スマホやネット上の写真とは違い、印刷して「観る」ものだという事を忘れずに、色合いや用紙も最終チェックしてみてください。

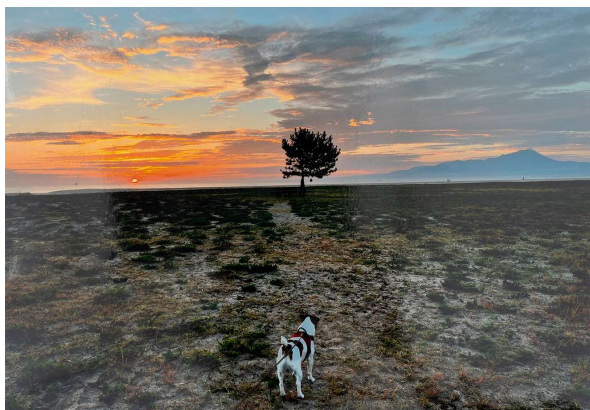
●中学校

写真はスマホで、が日常となってきたようなこの頃です。手軽に撮影できることはいいことですが、撮影する際に、他人を勝手に撮影してはいけないとか、SNSにあげる時に配慮するとか、人物にカメラを向けることをためらってしまうような時代になってきたと感じます。そんな中で何を撮影しますか？空？海？花？夕日？美しいものに心ひかれることは共感しますが、他の人と被写体がかぶってしまい、作者が伝えたいことがわかりにくくなる気がしました。

また、写真作りに悩んでいる頃なのかもしれないと思った作品もありました。悩みながら撮り続けて次の作品も是非見せてください。楽しみに待っています。入選作品からは作者の想いや伝えたい事がしっかり届きました。被写体を発見した目や感性を益々伸ばしてほしいです。

毎年お伝えしていますが、プリント仕上げが残念な作品も少なくなかったです。入選できたはずの作品が選外になるのはもったいないです。

●特別賞 「小さな冒険」 鐘築 佳大 小5(境港市)



今回応募された作品の中で審査員全員の意見が一致した素晴らしい作品です。この作品は写真が単に写っているもので真実を伝えるだけにとどまらず、作品を構成するいろいろな要素から見るものに様々な印象を与える芸術作品になっていると感じます。撮影者のこの感性を今後も作品作りに活かしてほしいと思います。